

高地東クシ・ハディヤ語の音韻調査*

二ノ宮崇司
(筑波大学)

s0430062@ipe.tsukuba.ac.jp

1 はじめに

本稿は、ハディヤ語 (Hadiya)¹ の音韻に関する調査報告である。第2節では先行研究をとり挙げ、第3節では調査方法を、第4節では調査結果を示す。エチオピア中部に分布するハディヤ語について柘植 (1992: 181) は次のように述べている。

「ホサンナ (Hosanna) 市を中心に、ビラテ (Bilate) 川とオモ (Omo) 川とにはさまれた地域に分布する言語。話者人口は、1970年代初めで、約70万人と推定されている」

Hudson (1989: 2) によれば、ハディヤ語は系統的にアフロ・アジア諸語の中でも、クシ諸語に属しており、さらには東クシ諸語、高地東クシ諸語²に属する。本稿はハディヤ語音韻論を調査の対象としているが、これは最終的にアフロ・アジア諸語の歴史的音韻論への還元を見据えている。具体的には、高地東クシ祖語、東クシ祖語、クシ祖語、アフロ・アジア祖語の再建を目指す。

* 本調査は平成16～22年度科学研究費基盤研究(B)「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表：乾秀行(山口大学)(課題番号16401008, 19401023)によるものである。調査に至る過程で特に小脇光男先生にはご助力いただいた。そして本稿の執筆の際には、柘植洋一先生から様々な知識をご提供いただいた。また、城生佰太郎先生には、録音のためのピンマイクを、池田潤先生には口唇形状の撮影のためのビデオカメラを貸していただいた。諸先生方をはじめ、筆者を支えていただいた方々に感謝申し上げたい。

¹ 言語名に関しては、Hadiya 以外に Hadiyya、Adiya、Gudella、Gudeila などがある(柘植 1992: 181)。

² ハディヤ語以外の高地東クシ諸語には、カンバタ語、アラバ語、スィダモ語、ゲデオ語、ブルジ語がある(Hudson 1989: 3)。

なおハディヤ語の音声・音韻について Plazikowsky-Bauer や Hudson が既にいくつかの指摘をしているが、20年近く前に行われた調査を筆者自身が見直すことには意義があるものと考えられる。

2 先行研究

ハディヤ語音韻論の先行研究として、Plazikowsky-Bauer (1960)、Hudson (1976)、Hudson (1989)、Hudson (2007) を挙げることができる。Plazikowsky-Bauer (1960: 38) と Hudson (1976: 247)、Hudson (1989: 11)、Hudson (2007: 531) が提示した母音体系は次の通りである。

表 1: ハディヤ語の母音

i	u
e	o
a	

Plazikowsky-Bauer (1964) と Hudson (1989) から各母音の事例を以下に挙げる。

i: illi「目」(Plazikowsky-Bauer 1964)³ / ille「目」(Hudson 1989)⁴。
 e: end̄ʒa「匂い」(PB) / end̄ʒa「匂い」(H)。a: 'ama「母」(PB) / ama「母」(H)。o: onto「5」(PB) / onto「5」(H)。u: u:l̄la「土地」(PB) / ulla「国」(H)。

Hudson (1976: 249) によれば、母音音素はよりラックスなものとして実現する場合がある。具体的には、閉音節の環境で、i は [i]、e は [ɛ]、a は [ə]、o は [ɔ]、u は [u] として実現する⁵。

また、ハディヤ語のアクセントは Plazikowsky-Bauer (1960)、Hudson (1976) などによってストレスとされているが、Hudson (1976: 248, 250) によれば、ストレスが置かれない語末の i と a は、CV:、CVC、CV:C という音節の後ろの環境でラックスとして実現するだけでなく、無声化する。ストレスの置かれる位置について、Plazikowsky-Bauer (1960: 39) は次のように考えている。2音節の名詞は1音節目に強勢が置かれ、3音節の名詞は2音節目が長くない時、1音節目に置かれる。Hudson (1976: 248) によれば、ストレスは一般的に CV:、CVC、CV:C という

³ 以下、語彙リストでは PB と略す。

⁴ 以下、語彙リストでは H と略す。

音節に置かれる。これはストレスが複数箇所に入れられるということが示唆されており、Hudson (1976: 248) はストレスが複数箇所に入れられる例として、'ʃokki'sukko「彼が燃やした」を挙げている。しかし、城生 (1992: 108) によれば、ストレスは1単語内に1箇所だけ置かれるという原則があり、第2ストレスを認める場合もあるが、このハディヤ語の事例が第2ストレスを認めるものなのかどうかは不明である。そして Hudson (1989: 6) によれば、ストレスは語の最後の長母音、二重母音に置かれ、語の最後が長母音でない時、最後から2音節目に置かれる。Hudson は1976年の研究と1989年の研究とで異なる見解を示している。

ハディヤ語の子音目録については、Plazikowsky-Bauer (1960, 1964) のものと Hudson (1976, 1989, 2007) のものを示す。先ず、以下の表2に Plazikowsky-Bauer (1960, 1964) をもとに筆者が再構築したものを示す。

表 2: ハディヤ語の子音 (Plazikowsky-Bauer 1960, 1964)

Hadiya	両唇音	唇歯音	歯茎音	後部歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	p b		t d	d		k g	ʔ
鼻音		m		n			
ふるえ音				r			
摩擦音		f v	s z	ʃ ʒ			h
破擦音				tʃ dʒ			
側面接近音				l			
接近音		w				j	
喉頭化音	p'		t'	tʃ'			k'

Plazikowsky-Bauer (1960, 1964) の特徴は、音素表記をしていない点である。そのため、上の表2は子音音素目録ではない点に注意する必要がある。この研究で特に問題であると思われるのは、p、d、ʔ、ʒ、p' である。ʒ という音がハディヤ語に存在すると Plazikowsky-Bauer (1960: 38) は考えているが、その具体例を筆者は確認できなかった。p、d、ʔ、p' という音が語頭に表れる例は見られなかった。ちなみに、「跳ぶ」を意味する単語で、p と p' が交替している (Plazikowsky-Bauer 1964: 177)。それは、t'opp- / t'op'p'- である。また Plazikowsky-Bauer (1960: 38) によれば、b の変種として、v が見られるという。「今」を意味する単語で、b と v が交替している。その例を含め、以下に

⁵ 同じようなことが Hudson (2007: 532) で述べられている。

Plazikowsky-Bauer (1964) からの各子音の事例を挙げる。

p : 'tʃopa 「滴」。 b : bare: 「穴」。 v : kava 「今」。 t : 'tuma 「ニンニク」。 d : do'na 「鳥の巣」。 d̥ : 'baɖa 「平地」。 k : 'kaba 「今」。 g : 'gudde: 「結び目」。 ? : wa:?a 「神」。 m : 'mine: 「家」。 n : 'nigga 「静脈」。 r : 'ramata 「残り火」。 f : 'faraʃo 「馬」。 s : 'saja 「雌牛」。 z : zau'a?a 「境界」。 ʃ : 'ʃama 「腐った」。 h : he:ma 「夕方」。 tʃ : 'tʃupa 「乳鉢の槌」。 d̥ʒ : 'd̥ʒora 「悪い」。 l : lo'ba 「多数の」。 w : 'wo?ma 「いっぱい」。 j : jege:tta 「助け」。 p' : da:p'o:h'hani 「斥候」。 t' : t'a:ra 「鉄」。 tʃ' : 'tʃ'a:ka 「光」。 k' : k'aro 「友達」。

次に Hudson (1976, 1989, 2007) の子音音素目録を以下の表 3 に示す。

表 3：ハディヤ語の子音 (Hudson 1976, 1989, 2007)

Hadiya	両唇音	唇歯音	歯茎音	歯茎的硬口蓋摩擦音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	b		t d			k g	ʔ
鼻音	m		n		ɲ		
弾き音			r				
摩擦音		f	s z	ç			h
破擦音				tç dʒ			
側面接近音			l				
接近音	w				j		
喉頭化音	p'		t'	tç'		k'	

Hudson (1989: 11) において、上の表 3 以外に 'l、'm、'n というものが子音音素として認められている。これらは、子音の直前に喉頭化を伴うものである⁶。また、n には調音点の部分同化が起きるとされている。例えば lank'ummo 「我らが知る」は [lɔŋk'ummo] として実現すると Hudson (1976: 250) は述べている。ʔ については、語中だけでなく、語頭にあらわれる場合があり、その音環境は直前の単語が母音終わりである (Hudson 2007: 532)。Hudson の諸研究において問題であると思われたのは、ɲ、r、p' であった。Hudson (1989) はこれら 3 つの音を音素として考えているが、これらの音が語頭に現れる例はない。まして、ミニマル・ペアとなる事例も見当たらない。以下に Hudson (1989) からの各子音音素の事例を挙げる。

⁶ 'l、'm、'n は Hudson (2007: 532) において、ʔl、ʔm、ʔn のようにすべきであるとされている。

b : bare 「井戸」。 t : tuma 「ニンニク」。 d : do'na 「巢」。 k : kaba 「今」。 g : gudda 「結び目」。 ? : wa:?a 「神」。 m : mine 「家」。 n : nigga 「静脈」。 n : çi:nça 「炭」。 r : la:ra 「果物」。 f : faraçço 「馬」。 s : saja 「雌牛」。 z : zeita 「油」。 ç : çama 「腐った」。 h : hi:mo 「夕方」。 ṭç : ṭçingara:lla 「鷹」。 ḍz : ḍzora 「悪い」。 l : lop'p'o 「大多数」。 w : wo'ma 「満ちた」。 j : ja:jj- 「除名する」。 p' : ṭç'up'a 「乳棒」。 t' : t'a:ra 「鉄」。 ṭç' : ṭç'up'a 「乳棒」。 k' : k'o:ra 「賢い」。

次にハディヤ語の音素配列を見ていくが、特に子音連続に着目する。子音連続が起きる環境として、語頭と語中と語末の3つがありうるが、語頭と語末の例は語中に比べて少ない。先ず以下に語頭と語末の例を挙げる。

gr/r- : gra:ra 「ミモザ」(PB) / gra:ra 「アカシア」(H)。 -rz : irz 「魅力」(H)⁷。

次に語中の子音連続の例を挙げるが、例えば以下のものがある。

-ns- : ho:nso 「9」(PB) / honso 「9」(H)。 -mb- : um'bullla 「霧」(PB) / humbu'la 「霧」(H)。 -ng- : da:nga 「境界」(H)。 -jd- : 'ajda:ra 「出来立てのビール」(PB) / ajda:ra 「ビール」(H)。 -mṭç- : k'asamṭça 「戦争」(H)。 -r/rç- : mir'go?o 「より大きな雄の子牛」(PB) / mirgo?o 「雄牛」(H)。 -dm- : ludma:rage 「年」(H)。 -sb- : tasbada 「希望」(H)。 -ks- : ekso:do 「明後日」(H)。 -bt'- : ṭç'abt'o?o 「淋病」(H)。

3 調査方法

今回の調査データは、2008年2月25日と翌26日にエチオピア連邦民主共和国南部諸民族州都 Awasa で得たものである。今回協力を得たインフォーマントは、Shone で生まれ、Awasa で生活している KK 氏である。KK 氏は調査時点で22歳であり、言語形成期を Shone で過ごした。父親はハディヤ語母語話者で、母親はウォライタ語母語話者であるが、KK 氏が Shone で過ごしていた時、ハディヤ語を主に使用していた。

⁷ この単語については、irza という変種も示されている。

録音は Ediol R-09 (Roland 製) にエレクトレットコンデンサーマイクロホン ECM-16 (SONY 製) を接続し、Wave 形式にてファイル化した。サンプリング・レートは取り込み時点で 44,100Hz、量子化 16 ビットであった。ちなみにモノラルで録音した。また口唇形状の確認として、ビデオカメラによる撮影を行った。撮影には DCR-PC120 (SONY 製) を用いた。

単語収集の方法としてキャリアセンテンスを用いた。その際に用いた文は、kuk _____ hadi:「これはハディヤ語で _____ です」である。インフォーマントには予め英語で書かれた文カード ('This is "_____" in Hadiya') をチェックしてもらい、それをハディヤ語の文に訳してもらった。

4 調査結果

筆者が調査した結果を以下に述べるが、収集調査した語彙には、訳と語彙番号の (数字) を示す。

4.1 母音

母音の音質として、以下のものを確認することができた。

[i]	[ˈille]	「目」(53)
[i]	[hɔsʲiˈsoane]	「必要な」(46)
[e]	[edˈdɛfɕ]	「衣服」(50)
[ɛ]	[ˈbutɕɛˈara]	「泥」(41)
[a]	[ˈamat]	「母」(48)
[a]	[ˈmʲiɕa]	「果物」(32)
[ɑ]	[ˈgɑŋgɑl]	「ハゲワシ」(36)
[ɔ]	[hɔsʲiˈsoane]	「必要な」(46)
[o]	[ˈbʲilˈol]	「外国の」(56)
[ɔ]	[ˈho:bʲitɕɔ]	「クロコダイル」(44)
[u]	[ˈullakʷɑn]	「境界」(06)
[ə]	[fəsʲiˈsʲimma]	「出ていく」(67)

ミニマル・ペアをつくるような語彙は確認できなかった。しかし母

音音素には、先行研究と同じように、i、e、a、o、u がたてられると
考えられる。[i]、[i̥] という異音の音素として i を、[e]、[e̥] という
異音から e を、[a]、[ḁ]、[ɑ]、[ɑ̥] という異音から a を、[o]、[o̥] と
いう異音から o を、[u] という異音から u を音素としてたてておく。
a については、直前が前寄りの子音の場合 [a]、[ḁ] となり、後寄りの
子音の場合に、[ɑ]、[ɑ̥] となるものと考えられる。

a と e は ['mʲiçɑ] ~ ['mʲiçe̥] 「果物」(32) のように交替する場合
がある。また、['tʲeŋgle] ~ ['tʲiŋgle] 「ハゲワシ」(36) のように e と
i が交替する場合、['dʲimbant̪o̥] ~ ['dʲimbant̪çɑ] 「酩酊」(23) のよ
うに o と a が交替する場合がある⁸。

[ə] は、ストレスの置かれぬ音節の母音が弱化した結果であると考え
られる。[fəsʲsʲimma] 「出ていく」(67) は i 母音が弱化した事例で
あると考えられる。それは、['fisʲsʲimma] のような変種が見られるか
らである。

4.2 子音

母音と同様、子音についてもミニマル・ペアをつくるような語彙は
確認できなかった。それを踏まえて、子音の議論を行う。今回収集し
た語彙数は少なく、ここではハディヤ語子音音素目録の全体を提案し
ない。ただし一部の子音について、音素になりうるかどうかを検討す
る。まず、子音の後ろに母音がくるものを事例として挙げるが、こ
こでは、後続の母音が広母音の場合と非広母音の場合に分ける。

広母音	非広母音
[p] ['tʲapɑ] 「穀物、根」(35)	['dʒapɔ] 「病気」(37)
[b] ['balle] 「洞窟」(59)	['be:tɔ] 「少年」(02)
[bʲ] —	[kobʲiʔʲiçɑ] 「例」(16)
[t] ['tamʲmʲit̪çɑ] 「質問」(21)	['tum] 「ニンニク」(03)
[d] ['dara] 「夕方」(42)	[wod'de:ç] 「アカシア」(26)
[dʲ] —	['dʲi:çɑ] 「蜂」(07)
[k] ['kaballa] 「今」(08)	[kobʲiʔʲiçɑ] 「例」(16)
[kʲ] —	[çokʲkʲimma] 「火をつける」(63)
[kʷ] ['ullakʷan] 「境界」(06)	—

⁸ それと連動して、直前の [i̥] と [i̥ç] が交替する。

[g]	['gɑŋgɑl] 「ハゲワシ」 (36)	[har'go:t] 「雄牛」 (22)
[gʲ]	—	['d̥zɑgʲi:ra] 「巢」 (19)
[ʔ]	['waʔa] 「神」 (34)	['t'eʔo:] 「菓子」 (57)
[m]	['lommana] 「葬式」 (33)	['mu:za] 「バナナ」 (39)
[mʲ]	—	['mʲine] 「屋根、家」 (18)
[n]	['lommana] 「葬式」 (33)	['mʲine] 「屋根、家」 (18)
[ɲ]	—	['ɲik] 「穀物、根」 (35)
[r]	['but̪ɕe 'ara] 「泥」 (41)	['d̥ʒoro] 「悪い」 (38)
[r]	['dara] 「夕方」 (42)	[wo'roro] 「内側」 (47)
[f]	[fa'raʃu] 「馬」 (60)	[fu:'to] 「綿」 (05)
[v]	—	['skarve] 「ヘッドバンド」 (28)
[s]	['sa:i] 「雌牛」 (30)	['so:r] 「4 番目」 (17)
[sʲ]	—	['sʲi:ne] 「カップ」 (31)
[z]	['mu:za] 「バナナ」 (39)	—
[ʃ]	['ʃam] 「腐った」 (27)	['ʃiɲʃimma] 「掃除する」 (64)
[ɕ]	['d̥ji:ɕa] 「蜂」 (07)	['ɕiɲɕimma] 「掃除する」 (64)
[h]	[hɑ'sant̪ɕo] 「調査」 (55)	['hons] 「9」 (43)
[d̥z]	['d̥zait̪a] 「油」 (40)	—
[t̪]	—	['d̥jimbant̪ɕo] 「酩酊」 (23)
[d̥ʒ]	—	['d̥ʒoro] 「悪い」 (38)
[t̪ɕ]	['wo:t̪ɕa] 「結び目」 (12)	['se: hamadak'ka 'rut̪ɕo] 「結び目」 (12)
[d̥z̥]	['d̥z̥ap̪o] 「病気」 (12)	—
[l]	['lam] 「2 番目」 (20)	['lommana] 「葬式」 (33)
[ʌ]	—	['uʌʌi 'fro 'wo] 「泉」 (45)
[w]	['waʔa] 「神」 (34)	['woɲnit̪ɕo] 「乳棒」 (14)
[wʲ]	—	['sawʲwʲit] 「希望」 (25)
[j]	—	['k'aw 'juwbe] 「賢い」 (10)
[jʰ]	—	['gatbejʰ] 「屋根、家」 (18)
[pʰ]	—	[loʔ'p'o:] 「大多数」 (54)
[tʰ]	['tʰap̪a] 「穀物、根」 (35)	['tʰɛŋgle] 「ハゲワシ」 (36)
[tʰʲ]	—	['tʰʲiŋgle] 「ハゲワシ」 (36)

[t̥ə']	['t̥ə'ak]	「明かり」(13)	['t̥ə'iʔit̥əo]	「子供」(51)
[k']	['k'aw 'juwbe]	「賢い」(10)	['k'ela]	「遠い」(52)

語末の子音は無開放ではなく、場合によっては ['gatbej^h]「屋根、家」(22) のように帯気音化したものとして現れる。

[b^j]、[d^j]、[k^j]、[g^j]、[m^j]、[n]、[s^j]、[ʌ]、[w^j] には、その後続に i 母音が伴う。そのためこれらの音は位置異音であると考えられる。[b]、[b^j] という異音から音素 b をたてておく。同様に、[d]、[d^j] から d を、[k]、[k^j] から k を、[g]、[g^j] から g を、[m]、[m^j] から m を、[n]、[n] から n を、[s]、[s^j] から s を、[l]、[ʌ] から l を、[w]、[w^j] から w をたてることができよう。なお n については後でも触れる。

[ç] と [ʃ] は ['çinjɕimma] ~ ['ʃinjɕimma]「掃除する」(64) のように交替する。これらの子音は同じ音素の自由異音になりうると考えられる。

[d̄ɜ̄] と [d̄ɜ̄] や、[r] と [r] が同じ音素の異音となるのかは現時点において不明である。

Plazikowsky-Bauer (1960, 1964) の d と ɜ は確認できなかった。

次に子音連続を見ていくが、先ず語頭と語末の子音連続の例を以下に挙げる。

[br]-	['brataɕ]	「鉄」(04)
[sk]-	['skarve]	「ヘッドバンド」(28)
[fr]-	['uʌʌi 'fro 'wo]	「泉」(45)
-[nç]	['ganç]	「寒気」(11)
-[ns]	['hons]	「9」(43)

語中の子音連続を見ていくが、二重子音の例として、次のようなものが見られた。

-[dd]-	[wod'de:ç]	「アカシア」(26)
-[kk]-	['se: hamadak'ka 'rut̥əo]	「結び目」(12)
-[mm]-	['i:jimma]	「運ぶこと」(61)
-[m ^j m ^j]-	['tam ^j m ^j it̥əɕ]	「質問」(21)
-[ɲɲ]-	['woɲɲit̥əo]	「乳棒」(14)

-[s ^j s ^j]-	[fəs ^j s ^j imma] 「出ていく」 (67)
-[ll]-	[^l ullak ^w an] 「境界」 (06)
-[λλ]-	[kob ^j iλ ^l λiçə] 「例」 (16)
-[ww]-	[^k 'awwa] 「賢い」 (10)
-[w ^j w ^j]-	[^s 'aw ^j w ^j it] 「希望」 (25)

二重子音以外の二子音連続の例として、以下のものを挙げる。

-[mb]-	[^d imbant ^ŋ o] 「酩酊」 (23)
-[ŋg]-	[^g an ^g al] 「ハゲワシ」 (36)
-[nç]-	[^ç inçimma] 「掃除する」 (64)
-[nʃ]-	[^ʃ inʃimma] 「掃除する」 (64)
-[nt̪]-	[^d imbant ^ŋ o] 「酩酊」 (23)
-[Nɰ]-	[^m iN ^h o:t] 「井戸」 (01)
-[rv]-	[^s karve] 「ヘッドバンド」 (28)
-[rg]-	[^h ar ^g o:t] 「雄牛」 (22)
-[tb]-	[^g atbej ^h] 「屋根、家」 (18)
-[ʔp']-	[loʔ ^p 'o:] 「大多数」 (54)

この二子音連続という環境において出てくる [ŋ]、[N]、[m]、[n]、[n] は n の位置異音と考えられる。

三子音連続の例として [^t'engle] 「ハゲワシ」 (36) を挙げる。

なお、Hudson (1989: 11) が想定する「子音の直前に喉頭化を伴う 'l(=?l)、'm(=?m)、'n(=?n)」の事例として [^l'baʔle] 「洞窟」 (59) を挙げることができる。これは、[^l'balle] のように二重子音と交替する場合がある。

VCC という組み合わせが V:C という組み合わせとして現れる場合がある。その例として、[^f'aλλima]、[^f'a:λima] 「飛び回る」 (66)、[^k'aw 'juwbe]、[^k'aw 'ju:be] 「賢い」 (10) を挙げることができる。

4.3 プロソディー

ここでは先行研究にあわせて、長短と強弱⁹に着目する。高低につい

⁹ 強弱に関して、筆者なりにストレスの位置を定めたが、事例によってはストレス

ては別の機会に論じたい。

長短の違いが弁別的に働く事例は見当たらなかった。同様に、ストレスの位置の違いが弁別的に働く事例も見当たらなかった。ここでは長短と強弱に関わる音声現象を見ていく。

今回収集した語彙において、ストレスの置かれぬ母音が大多数 [ə] 化することはなかったが、唯一 [fəs^j's'i'mma] 「出ていく」(67) において [ə] 化が認められた。ここから、ハディヤ語はストレス言語としての特徴を有していると考えられる。ストレスが置かれぬ母音に関して、無声化の事例が多数見られた。無声化が起きるのはストレスが置かれぬ母音であるだけでなく、[hqs^j'i'soane] 「必要な」(46) のように無声子音間に挟まれた場合、あるいは ['ho:b^ji'tɕo] 「クロコダイル」(44) のように、語末環境でその直前に無声子音がかかる場合である。無声子音間に挟まれた環境の例外として、[ha'santɕo] 「調査」(55) を挙げることができる。第1音節の [a] は無声化していない。語末環境でその直前に無声子音がかかる場合の例外として、['tɕ'i'kitɕo] 「子供」(51) を挙げる。この語末環境の無声化については、先行研究の所で、「Hudson (1976: 248, 250) によれば、ストレスが置かれぬ語末の i と a は、CV:, CVC, CV:C という音節の後ろの環境でラックスとして実現するだけでなく、無声化する¹⁰」と述べたが、無声化は ['bu'tɕe 'ara] 「泥」(41) のように他の種類の母音でも起き、['m'itɕa] 「果物」(32) のように CV という音節のあとでも起きる。

調査語彙のストレスの位置については、先行研究の規則と照らし合わせて、見ていく。Plazikowsky-Bauer (1960: 39) によれば、2音節の名詞は1音節目に強勢が置かれるとされているが、その規則は ['be:to] 「少年、赤子」(02) などように多数の事例に適用できるものの、[m^j'in'ho:t] 「井戸」(01) などのように例外も見られる。また Plazikowsky-Bauer (1960: 39) によれば、3音節の名詞は2音節目が長くない時、1音節目に置かれるということであった。これは ['lommana] 「葬式」(33) のような規則通りの事例が存在するものの、[d^hzag^j'i:ra] 「巢」(19) のように例外となる事例もある。Hudson (1976: 248) の規則は、CV:, CVC, CV:C という音節にストレスが置かれ、場合によってストレスが複数箇所に入れられるというものであった。['ɕinɕimma] 「掃除する」(64) という事例では、語頭の母音にのみストレスが置かれるが、語中の -CVC- (-ɕim-) にもストレスが置かれると

の位置を定めるのが難しい事例もある。

¹⁰ 無声化は別として、音質がよりラックスなものとなるかは不明である。

いうことはない。このように Hudson (1976: 248) の規則にも例外が存在する。また Hudson (1989: 6) の規則では、ストレスは語の最後が長母音、二重母音の場合、そこに置かれ、語の最後が長母音でない時、最後から 2 音節目に置かれるとされている。これは、['brat̩]「鉄」(04)、[har'go:t]「雄牛」(22) のように規則通りの場合が多数見られるものの、['lommana]「葬式」(33) のように例外となる事例もある。

5 おわりに

今回、ハディヤ語のセンターから地理的に離れていたところで、ハディヤ語の調査を行った。そのため、今回収集したデータは決して最良であるとは言えないだろう。次回の調査ではハディヤ語のセンターで調査を行う必要がある。そして、今以上に質の高いハディヤ語の音声資料・映像資料を収集する必要があると筆者は考えている。これらを踏まえて、今回行った母音・子音・強弱や長短といったアクセントの記述をもう一度行う必要があるだろう。そして、今回扱いきれなかった高低の記述結果も示していきたい。

【参考文献】

- Hudson, Grover (1976) Highland east Cushitic. In: M. Lionel Bender (ed.) *The non-Semitic languages of Ethiopia*, 232-277. East Lansing: Michigan State University.
- Hudson, Grover (1989) *Highland east Cushitic dictionary*. Hamburg: Helmut Buske Verlag.
- Hudson, Grover (2007) *Highland east Cushitic morphology*. In: Alan S. Kaye (ed.) *Morphologies of Asia and Africa*, vol. 1: 167-192. Winona Lake: Eisenbrauns.
- 城生 佰太郎 (1992) 『音声学 新装増訂 3 版』バンダイ・ミュージックエンタテインメント.
- Plazikowsky-Brauner, Herma (1960) Die Hadiya-Sprache. *Rassegna di Studi Etiopici* 16: 38-76.
- Plazikowsky-Brauner, Herma (1964) Wörterbuch der Hadiya-Sprache. *Rassegna di Studi Etiopici* 20: 133-182.
- 柘植 洋一 (1992) 「ハディーヤ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編著) 『言語学大辞典 世界言語編 (下-1)』3: 181-182. 三省堂.

<語彙集>

参考として、今回収集した語彙を以下に挙げる。

01	'well' 「井戸」	[m ^h iN ^h o:t]、 PB bare: 「穴」、H 'bare 「井戸」。
02	'boy, baby' 「少年、赤子」	['be:tq]、 PB be:to 「少年」、 H 'be:to 「少年」、t̃e'i:la 「赤子」。
03	'garlic' 「ニンニク」	['tum]、 PB 'tuma 「ニンニク」、H 'tuma 「ニンニク」。
04	'iron' 「鉄」	['brata]、 PB t'a:ra 「鉄」、H t'a:ra 「鉄」。
05	'cotton' 「綿」	[fu:'to]、 PB fu:t't'o?o 「綿」、H t'it' 「綿」。
06	'border' 「境界」	['ullak ^w an]、 PB zau'a?a 「境界」、H da:nga 「境界」。
07	'bee' 「蜂」	['d ^h i:ca]、 PB di:fa 「蜂」、H di:ca 「蜂」。
08	'now' 「今」	['kaballa]、[kq'ba]、 PB 'kaba, 'kava 「今」、H kaba 「今」。
09	'coffee' 「珈琲」	['buna]、 PB 'buna 「珈琲」、H k'a:wwa 「珈琲」。
10	'clever' 「賢い」	['k'aw 'juwbe]、[k'aw 'ju:be]、[k'awwa]、 PB —、H k'o:ra 「賢い」。
11	'cold (illness)' 「寒気」	['ganç]、 PB 'ganfa 「鼻風邪」、H ganca 「寒気」。
12	'knot' 「結び目」	['wo:tca]、[wo:tca]、 [se: hamadak'ka 'rutca]、 PB 'gudde: 「結び目」、H gudda 「結び目」。
13	'light' 「明かり」	[t̃e'ak]、 PB t̃e'a:ka 「明かり」、H t̃e'a:kka 「明かり」。
14	'pestle' 「乳棒」	['wonnitco]、 PB 't̃upa 「乳鉢の槌」、H t̃e'up'a 「乳棒」。
15	'door' 「扉」	[ul'lumo]、 PB 'u?lum hak'k'a 「扉」、H u'lumma 「扉」。
16	'example' 「例」	[kob'iA'liçq]、 PB —、H kobi'lato 「例」。
17	'fourth' 「4 番目」	['so:r]、 PB so:?! 「4 番目」、H ço:'lane 「4 番目」。

18	'roof, house' 「屋根、家」	['m ^j ine]、['gatbej ^h], PB ambi:mma 「屋根」、'mine: 「家」、 H mi'ni 「屋根」、mine 「家」。
19	'nest' 「巣」	['d̄zag ^j i:ra]、 PB do?na 「巣」、H do'na 「巣」。
20	'second' 「2 番目」	['lam]、 PB 'la?me: 「2 番目」、H la'mane 「2 番目」。
21	'question' 「質問」	['tam ^j m ^j it̄çə]、 PB ー、H t'a'mit̄çə 「質問」。
22	'ox' 「雄牛」	[har'go:t]、 PB mir'go?o 「雄牛」、H mirgo?o 「雄牛」。
23	'drunkenness' 「酩酊」	['d ^j imbant̄o]、['d ^j imbant̄çə]、 PB 'dimba 「酩酊」、H dimba 「酩酊」。
24	'charcoal' 「炭」	['kasala]、['g ^j il]、['ʃokako 'g ^j il]、 PB ʃi:nʃa 「炭」、H ç:i:ne 「炭」。
25	'hope' 「希望」	['saw ^j w ^j it]、 PB ー、H tasbada 「希望」。
26	'accacia' 「アカシア」	[wod'de:ç]、 PB gra:ra 「ミモザ」、H gra:ra 「アカシア」。
27	'rotten' 「腐った」	['ʃam]、 PB 'ʃama 「腐った」、H çama 「腐った」。
28	'headband' 「ヘッドバンド」	['skarve]、 PB ー、H ー。
29	'cheek' 「頬」	['sum 'kolo]、 PB ー、H ç:i:ne 「頬」。
30	'cow' 「雌牛」	['sa:i]、 PB 'saja 「雌牛」、H sa:ja 「雌牛」。
31	'cup' 「カップ」	['s ^j i:ne]、 PB find̄za:na 「カップ」、H si:na 「カップ」。
32	'fruit' 「果物」	['m ^j içə]、['m ^j içə]、[hə'ma:m]、 PB la:ra 「果物」、H la:ra 「果物」。
33	'funeral' 「葬式」	['lommana]、 PB wa:mma 「葬式」、H wa:mma 「葬式」。
34	'god' 「神」	['wa?a]、 PB wa:?a 「神」、H wa:?a 「神」。
35	'grain, root' 「穀物、根」	['t'apə]、['ɲik]、 PB wi:t'o 「穀物」、 H wit'o 「穀物」、nigga 「根」。
36	'vulture' 「ハゲワシ」	['gəŋgal]、['t'ɛŋgle]、['t ^j 'ingle]、 PB am'mara 「ハゲワシ」、H t̄çingara:lla 「鷹」。

37	'disease' 「病気」	['d̄zapō]、 PB 'd̄zabbo 「病気」、H d̄zabbo 「病気」。
38	'bad' 「悪い」	['d̄zoro]、 PB 'd̄zora 「悪い」、H d̄zora 「悪い」。
39	'banana' 「バナナ」	['mu:za]、 PB —、H mu:za 「バナナ」。
40	'oil' 「油」	['d̄zaitā]、 PB —、H zeita 「油」。
41	'mud' 「泥」	['buʔēē 'ara]、 PB —、H hara 「泥」。
42	'evening' 「夕方」	['dara]、 PB he:ma 「夕方」、H hi:mo 「夕方」。
43	'nine' 「9」	['hons]、 PB ho:nso 「9」、H honso 「9」。
44	'crocodile' 「クロコダイル」	['ho:b̄iʔēō]、 PB —、H na:t̄ēt̄ēa 「クロコダイル」。
45	'spring' 「泉」	['uʔli 'fro 'wo]、 PB 'buʔo 「泉」、H buʔo 「泉」。
46	'necessary' 「必要な」	[hqs̄j̄i'soane]、 PB —、H hasisoane 「必要な」。
47	'inside' 「内側」	[wo'roro]、 PB —、H gi'do 「内側」。
48	'mother' 「母」	['amat]、 PB 'ama 「母」、H ama 「母」。
49	'country' 「国」	['u:la]、 PB u:lla 「国」、H ulla, u:lla 「国」。
50	'clothes' 「衣服」	[ed'det̄ē]、 PB addo:t̄iʔt̄ 「衣服」、H eddit̄ēt̄ēa 「衣服」。
51	'child' 「子供」	['t̄ē'iʔit̄ēō]、 PB be:to 「子供」、H o:çit̄ēt̄ēo 「子供」。
52	'far' 「遠い」	['k'ela]、 PB —、H 'baçila 「遠い」。
53	'eye' 「目」	['ille]、 PB 'illi 「目」、H ille 「目」。
54	'majority' 「大多数」	[loʔ'p'o:]、 PB lo'ba 「目」、H lop'p'o 「目」。
55	'search' 「調査」	[ha'sant̄ēō]、 PB —、H la:'lo 「調査」。
56	'foreign' 「外国の」	['b̄il 'ol]、 PB bi:ra 「外に」、H bi:'l 「外国の」。

57	'sweets' 「菓子」	['t'eʔo:], PB —、H —。
58	'fog' 「霧」	['tunsaʔ], PB um'bullu 「霧」、H humbu'la 「霧」。
59	'cave' 「洞窟」	['balle], ['baʔle], PB —、H ma'na 「洞窟」。
60	'horse' 「馬」	[fa'rafu], PB 'farafo 「馬」、H faraçço 「馬」。
61	'carrying' 「運ぶこと」	['i:jimma], PB ijj- 「運ぶこと」、H ijj- 「運ぶこと」。
62	'to give' 「与える」	['u:wumma], PB u:w- 「与える」、H uww- 「与える」。
63	'to fire' 「火をつける」	[çok ^j k'imma], [ʃok ^j k'imma], PB gir- 「火をつける」、H gir- 「火をつける」。
64	'to clean' 「掃除する」	['çinçimma], ['ʃinçimma] PB —、H talal- 「洞窟」。
65	'main' 「主な」	['ʃo:ho], PB —、H —。
66	'to fly' 「飛び回る」	['faʎʎima], ['fa:ʎima], PB barar- 「飛び回る」、H barar- 「飛び回る」。
67	'to out' 「出ていく」	[fəs ^j s'imma], ['fis ^j s'imma], PB fir- 「出ていく」、H fir- 「出ていく」。
68	'fat' 「肥えた」	['fu:lla], ['fu:ʎimma], PB diʔira:ko'hani 「肥えた」、 H diʔira 「肥えた」。